

横田英史の 書籍紹介コーナー



情報セキュリティの敗北史 ～脆弱性はどこから来たのか～

アンドリュー・スチュワート、小林啓倫・訳
白揚社 3,300円(税込)

「今後の情報セキュリティの在り方は歴史に学べ」とする書。筆者は、数々のセキュリティ事件を取り上げ、その背景と対応策を歴史のなかで位置づける。学会、セキュリティベンダー、コンピュータベンダー、ユーザー企業、エンドユーザー、ハッカーが果たした役割を明らかにする。

1970年代にランド研究所が初めて取り上げた情報セキュリティが、どのような糺余曲折を経て現在に至ったかを紹介する。コンピュータウイルス、フィッシング、ソーシャルエンジニアリング、ランサムウェア、ゼロデイ脆弱性、国家によるハッキングなど、事例は多岐にわたる。エンドユーザーやユーザー企業のセキュリティ技術者に判断させないことの重要性を説く。判断させることができることがミスを誘発し、攻撃者につけ入る隙を与える。「デフォルトでセキュアであること」の重要性を指摘する。

メタバース未来戦略 ～現実と仮想世界が融合合う ビジネスの羅針盤～

久保田瞬、石村尚也
日経BP 1,870円(税込)

ビジネスの視点からメタバースの見通しや取るべき4つのビジネスポジションを解説した書。メタバースについて、定着

期(2030年以降)に至るまでの道筋を、シーズ期、黎明期、普及期に分けて解説する。技術的な視点は弱いものの「メタバースの今」を手際よく切り取っている。

筆者は、「メタバースとは何か」から始め、メタバースに関する3つの誤解、メタバースをめぐる世界の状況と主要プレーヤー、メタバースビジネスの動向と業界構造、メタバースの始め方、メタバースの今後について解説する。事例も豊富で、サンリオ、三越伊勢丹、ローソン、NIKE、日産自動車、JR東日本などを取り上げる。

筆者はメタバースを3次元のインターネットと定義する。バーチャル空間にインターネットをもう一度生むのがメタバースだと語り、その裾野の広さを強調する。

生命機械が未来を変える ～次に来るテクノロジー革命 「コンバージェンス2.0」の衝撃～

スザン・ホックフィールド、久保尚子・訳
インターフィット 2,530円(税込)

マサチューセッツ工科大学(MIT)が研究している、生命の仕組みを工学に生かす取り組みを解説した書。バッテリーを作る遺伝子操作したウイルス、水を浄化するアクアポリンタンパク質、がん細胞の早期発見と効果的な治療に使えるナノ粒子、脳を増強し身体の動きを取り戻す義肢、食料危機を乗り越える「高速フェノタイピング」など、刺激的で興味深い事例が並ぶ。

例えばアクアポリンタンパク質を使うことで、水の分子を1個ずつ通過させるフィ

ルタを作ることができる。その数は1秒間に30億個に上るという。ナノ粒子の活用も面白い。体内の特定の組織まで造影剤を運べるので、画像処理を使った診断に比べ、20分の1の大きさの腫瘍も検出可能となる。

筆者は、MITの学長を学長を務めた生物学者。タイトルの「コンバージェンス2.0」は生物学と工学の融合を意味する。

AI・ロボットと共に存の倫理

西垣通、河島茂生、広井良典ほか
岩波書店 2,750円(税込)

「人間との共存を倫理として持つ自律ロボットはどのように創れば良いかを真剣に研究すべき時が来ている」と論じる書。「人新世におけるAIとロボット」「ロボットの倫理」「AI倫理の実装をめぐる課題」などを工学、情報学、メディア学、社会学の研究者が論じる。

人類はAIやロボットといいかに向き合うべきか、AIやロボットは倫理的にどういった問題をはらむのか、AIの倫理に関する自然科学と人文社会科学とのせめぎ合いなどを議論する。

「社会的マイノリティへの意識的・無意識的な差別の構造を理解し、包摂的な社会的な議論を経ずして倫理的な情報設計はできない」「情報技術は、設計者の認知バイアスに起因する問題が出たびに対症療法を行わざる得ない」「ビッグデータやAIを過大評価し、すべてを予測できるという見方は退けられるべき」と警鐘を鳴らす。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現xTECH)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経パait発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役に就任。2018年3月退任。2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事。現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

